

令和 2 年 度

事業報告



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

和歌山県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

1	災害救護対応	1
2	国際活動	7
3	赤十字奉仕団組織の強化	8
4	青少年赤十字	15
5	赤十字各種講習	17
6	会員の増強と活動資金の増収	20
7	広報活動の強化	23
8	評議員会	27
9	決算概要	28



1 災害救護対応

国内において大規模災害等が発生した場合、日本赤十字社は、下記の災害救護活動を行います。

- (1) 医療救護
- (2) 新型コロナウイルス感染症関係
- (3) こころのケア
- (4) 救援物資の備蓄と配分
- (5) 災害時の血液製剤の供給
- (6) 義援金の受付

これらの災害救護活動は、赤十字事業の最重要事業の1つです。

また、このほかにも、住民の方々の様々なニーズに応じた活動を展開することとしています。

(1) 医療救護

日本赤十字社は、医療救護を展開するため、全国の都道府県支部に 489 班、そのうち和歌山県支部に 7 班（1 班あたりの編成は医師 1 人、看護師 4 人、薬剤師 1 人、主事 1 人）の常備救護班を編成し、災害時の初期医療から中長期にわたって被災地で活動を行える体制をとっています。

また、和歌山県と災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣協定を締結しており、県からの派遣要請に備えています。現在、和歌山県支部では 4 チーム（1 チームあたりの編成は、医師 1 人、看護師 3 人、業務調整員 1 人）、19 人の隊員を登録しています。

なお、日本赤十字社が行う災害救護活動に関する調整や、自治体、他の医療チームとの連携、調整業務等を行う、日赤災害医療コーディネートチームを 2 チーム（1 チームあたりの編成は、コーディネーター 1 人・コーディネートスタッフ 2 人）を登録しています。

令和 2 年度において、当支部では以下の救護活動を行いました。



★令和 2 年 7 月豪雨災害における救護活動

令和 2 年 7 月 3 日から 7 月 31 日にかけて、九州を中心に発生した豪雨が各地に甚大な被害をもたらした災害に対し、当支部では、熊本県水俣市などに DMAT 1 チーム、DMAT ロジスティクスチーム要員 1 名を派遣し、医療救護活動を実施しました。

班 名	派遣期間	編 成	主な活動場所
DMAT（※１）	7/10～7/14	医師１ 看護師２ 業務調整員２	水俣市など
DMAT ロジスティクスチーム（※２）	7/16～7/22	医師１	水俣市など

（※１）DMAT とは、国が災害医療の体制整備の一環として整備した、災害の急性期（発災 48 時間以内）に活動できる機動性を持った専門的な訓練を受けた災害派遣チームのことです。

（※２）DMAT ロジスティクスチームとは、現地の DMAT 活動を指揮する本部などにおいて、DMAT を統括する責任者のサポートや、病院の支援、情報収集などのロジスティクスを専門とした活動を行うチームのことです。



また、災害が発生した際に、円滑に救護活動が行えるよう、県内外で実施される防災関係機関等の訓練、研修に参加を予定していましたが、令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各訓練、研修会等は中止となりました。

◇予定していた主な災害救護訓練・研修等◇

訓 練 ・ 研 修 名	開催予定場所
第４ブロック合同災害救護訓練	奈良県
和歌山県津波災害対応実践訓練	和歌山県
石油コンビナート総合防災訓練	和歌山県
近畿地方DMATブロック訓練	和歌山県
支部災害対策本部運営訓練	県支部
日赤和歌山県支部常備救護班研修会	和歌山医療センター
全国赤十字救護班研修会	東京都、大阪府
日赤災害医療コーディネート研修会	東京都

(2) 新型コロナウイルス感染症関係

県民向けに、新型コロナウイルス感染症セミナー「新型コロナウイルス 3つの顔を知ろう」～負のスパイラルを断ち切るために～を新たに実施しました。

セミナーでは、新型コロナウイルスは3つの顔（病気自体、不安、差別）を持っており、これらが負のスパイラルとして繋がることで、さらなる感染の拡大に繋がっていくことを理解し、この負のスパイラルを断ち切るための知識の普及に努めました。

開 催 場 所	対象者	受講者数（人）
大新連絡所	奉仕団	18
県立和歌山商業高校	生徒	60
和歌山北高校北校舎	生徒・教諭	28
和歌山市あいあいセンター	地域住民	19
県立和歌山高校	生徒	270
和歌山北高校西校舎	生徒	180
和歌山大学（web開催）	奉仕団	18
紀美野町総合福祉センター	奉仕団	25
岩出市役所	岩出市職員	274
九度山町ふるさとセンター	教職員	25
岩出地区公民館他	地域住民他	249

(3) こころのケア

大規模災害が発生した場合、多くの死傷者の発生や家屋の倒壊、ライフラインの途絶等の様々な要因により、被災者には、心に大きなダメージを受けることによる体調の変化など、身体的な症状となって表れることがあります。

日本赤十字社は、被災地の避難所や地域を巡回し、被災者の健康状態や身近な悩みなどを傾聴して、心理的支援を行うこころのケア要員を派遣します。

令和2年度は、下記の研修等を実施し、こころのケア要員を養成しました。

◇こころのケア研修状況◇

研 修 会 名	実 施 日	実 施 場 所	養成要員数
こころのケア研修	1月29日／2月5日	和歌山医療センター	10人

(4) 救援物資の備蓄と配分

大規模災害の発生時には県市町等と調整を行い、当支部救護倉庫及び地区分区に備蓄している毛布や緊急セット等の救援物資を、被災された方々に届けられるようにしています。

品 目	備 蓄 数
毛布	2,964 枚
緊急セット	1,085セット
安眠セット	270セット
タオルケット	1,200 枚

<救援物資備蓄数(令和3年3月末現在)>



緊急セット

(5) 災害時の血液製剤の供給

災害時における血液製剤の円滑な確保や医療機関への万全な供給を支援する体制を整えています。

(6) 義援金の受付

令和2年度において、国内で発生した大規模災害の被災者を支援するために受け付けた義援金は、以下のとおりです。

	義援金名	受付件数 (累計件数)	受付金額 (累計金額)
1	東日本大震災義援金	5 件 (2,657 件)	175,222 円 (894,241,506 円)
2	平成28年熊本地震災害義援金	2 件 (472 件)	14,916 円 (92,598,847 円)
3	平成30年7月豪雨災害義援金	1 件 (136 件)	7,120 円 (31,427,596 円)
4	令和元年台風第19号災害義援金	7 件 (84 件)	194,330 円 (13,224,980 円)
5	令和2年7月豪雨災害義援金	64 件	4,381,289 円
6	令和3年2月福島県沖地震災害義援金	1 件	15,105 円
	合 計	80 件	4,787,982 円

※ 表中()内の金額及び件数は、該当する義援金の受付開始からの累計を示しています。

お寄せいただいた義援金は、手数料などを一切いただくことなく、被災地に設置された義援金配分委員会に送金し、義援金配分委員会からお見舞い金として、全額、被災された方々へお届けします。

義援金は全額、被災者のもとへ



(7) その他

① 小災害見舞品の配分

県内の小災害(※2)発生時には、その状況に応じて、毛布や緊急セット等の災害見舞品を地区区分を通じて配付します。

令和2年度は、毛布38枚、緊急セット20個を配布しました。

	海 南 市	橋 本 市	有 田 市	御 坊 市	田 辺 市	岩 出 市	有 田 郡	日 高 郡	東 牟 婁 郡	合 計
毛 布	6	6	0	1	12	3	4	2	4	38
緊急セット	3	5	1	1	6	1	1	1	1	20

(※2)小災害とは、火災や風水害等に起因する被害が災害救助法の適用に至らない規模の災害をいいます。

〈配分基準〉

品 目	配 分 基 準	配 分 数
毛布	(1) 小災害で住家が全焼、全壊、流失した世帯 (2) 半焼、半壊、床上浸水であっても長期間寝具等が使用不能であることが予想される世帯	原則として被災者1人あたり1枚
緊急セット	(1) 小災害で住家が全焼、全壊、流失、半焼、半壊、床上浸水した世帯 (2) 避難所等に避難を要する世帯	原則として1世帯(4人)あたり1個

② 災害救護装備等の充実

ア. 災害発生時の使用施設の整備

支部災害対応力の強化のため、災害救護倉庫の機能の充実を図りました。

- (1) 停電時に倉庫内に電力を供給できる非常用電源装置を設置しました。
- (2) 物資保管用移動式収納棚を設置しました。

イ. 救護装備の整備

常備救護班の活動に必要となる下記の資機材を更新しました。

資 機 材 名	年度内 更新数	年度末 装備数
折り畳み式ベッド	15 台	87 台
記録用カメラ	1 台	1 台
常備救護班用ウエストバッグ	25 個	25 個
常備救護班用ベスト	10 着	32 着



ウ. 赤十字救護看護師の養成

通常の看護だけでなく、国内外での自然災害や紛争に際し、救護業務に従事できる赤十字救護看護師の養成を支援しました。



③ 防災・減災セミナーの実施

南海トラフ地震等の大規模災害に備え、県内各地で住民の方々を対象とした防災・減災セミナーを実施しました。

このセミナーは、「自分の命は自分で守る、地域の安全はみんなで守る」ことを主眼に置き、発災時の行動に役立てられるよう開催しているもので、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催回数が減少しましたが、新たな試みとしてWebセミナーを取り入れるなどして以下のとおり実施しました。

なお、現在、セミナー講師は4人（職員1人・ボランティア講師3人）となっております。

開 催 地	実施回数	受講者数（人）
和歌山市	9	8 0 9
岩出市	8	5 2 3
九度山町	1	2 5
支部（Web 開催）	3	4 1
計	2 1	1, 3 9 8





2 国際活動

(1) 国際救援活動

日本赤十字社では、世界各地で続発している自然災害等の被災者や難民の支援のために、医療救援スタッフを現地に派遣し、緊急救援活動を行っています。

また、被災地の復興支援活動や保健衛生・災害対策など長期的な支援として開発支援を行っています。

(2) 海外救援金の受付

海外で発生した大災害の被害者や紛争による難民などを支援するために受け付けた海外救援金は、以下のとおりです。

また、令和2年12月1日から25日まで、日本放送協会（NHK）及びNHK厚生文化事業団との共催で、「NHK海外たすけあい」キャンペーンを実施しました。

海外救援金名	受付件数	受付金額
青少年赤十字1円玉募金	2件	19,965円
NHK海外たすけあい	98件	2,633,108円
合 計	100件	2,653,073円

キャンペーンでは、県内各赤十字奉仕団の協力を得るとともに、NHK和歌山放送局内に受付窓口を設置して、ご協力をいただけるようお願いしました。

お寄せいただいた海外救援金は、日本赤十字社や国際赤十字、被災国の赤十字社・赤新月社が現地で行う救援活動・復興支援活動などの資金として活用されます。

(3) 安否調査

武力紛争や、家族の離散等によって行方不明になっている身内の安否確認の依頼に対し、赤十字の「公平」「中立」の原則に基づいて、行方不明者の所在等の情報の収集に努めています。



3 赤十字奉仕団組織の強化

(1) 地域赤十字奉仕団

① 赤十字奉仕団組織の強化

県内の地区分区単位に結成されている奉仕団及び団員数は、令和2年度末現在、51団、6,432人となっており、赤十字の理想とする人道的な活動や地域の福祉と人々の相互理解を育む奉仕活動を積極的に実践していただきました。

県支部からは、地域に密着した奉仕活動を展開し、奉仕団活動がより一層充実したものとなるよう働きかけました。



地域赤十字奉仕団結成状況は、別表(11頁に掲載)のとおりとなっています。

② 赤十字奉仕団委員長会議の開催

新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、赤十字事業や奉仕団活動の連携と情報共有を図るため、下記のとおり奉仕団委員長会議を開催しました。

第1回 令和2年 7月16日(本県支部にて開催)

第2回 令和2年11月18日(本県支部にて開催)

※ 令和2年4月及び令和3年3月に開催を予定していた分は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

③ 赤十字奉仕団委員長研修の中止

奉仕団委員長として資質の向上や相互の親睦を深め、赤十字施設や防災施設の視察見学、又、研修地の奉仕団と交流や意見交換などを行う委員長研修を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

④ 赤十字奉仕団員研修会の中止

今後、所属奉仕団の活動を率先する団員を育成することを目的として、1泊2日の日程で開催する奉仕団員研修会を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

⑤ 和歌山県赤十字奉仕団大会の開催

令和2年10月15日に、日本赤十字社和歌山医療センターの多目的ホールにおいて、来賓、功労表彰受賞者、奉仕団委員長などが出席して、日頃の奉仕団員の

活動を称え、特に功労顕著な委員長や団員に対して有功章や各種功労表彰を贈呈する第31回和歌山県赤十字奉仕団大会を、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して開催しました。

式典では、仁坂吉伸支部長から、永年にわたり奉仕活動に尽くされた奉仕団員への各種有功章と支部長感謝状が贈られました。

◇第31回和歌山県赤十字奉仕団大会における受章者数◇

種別	受賞者数	
	個人（人）	団体（団）
金色有功章	3	1
銀色有功章	10	2
支部長感謝状（金枠）	18	—
支部長感謝状（銀枠）	63	—



⑥ モデル奉仕団活動の促進

本来の奉仕活動以外に、各奉仕団の模範となる奉仕活動を実践された「みなべ町赤十字奉仕団」と「太地町赤十字奉仕団」に対し、活動助成金を交付し、よりよい活動を進めていただけるよう支援しました。

⑦ 広報紙「奉仕団だより」の作成

平成26年度から毎年継続して発行している「和歌山県奉仕団だより」の第7号を発行し、県下の全赤十字奉仕団員に配付しました。



⑧ 奉仕団募金活動促進資材の作成

5月の「赤十字運動月間」及び12月の「NHK海外たすけあい」の実施時に、地域奉仕団の皆様が街頭募金活動で使用している「肩掛けたすき」や「のぼり旗」が経年劣化しているので、肩掛けたすき 280 枚・のぼり旗 310 枚（月間用 155 枚・NHK海外たすけあい用 155 枚）を新調しました。

各資材は各奉仕団に分配し、皆様の活動に役立てていただきました。

⑨ 手作りマスクの作製・贈呈

新型コロナウイルス感染症の拡大により、下記のとおり各奉仕団が手作りマスクを作製して、地元の市役所や町役場、小・中学校、福祉施設等に贈呈していただきました。



手作りマスクを作製された奉仕団

奉仕団名	作製枚数	主な贈呈先
和歌山市今福赤十字奉仕団	70	地元小学校(1校)
和歌山市楠見赤十字奉仕団	465	地元小学校(3校)・中学校(1校)
有田市赤十字奉仕団	1,226	有田市教育委員会を通じて、全ての小学校(7校)
田辺市田辺赤十字奉仕団	150	田辺市役所
新宮市新宮赤十字奉仕団	690	新宮市教育委員会、老人ホーム、児童福祉施設
有田川町吉備赤十字奉仕団	525	有田川町役場
太地町赤十字奉仕団	285	太地町教育委員会
計	3,411	

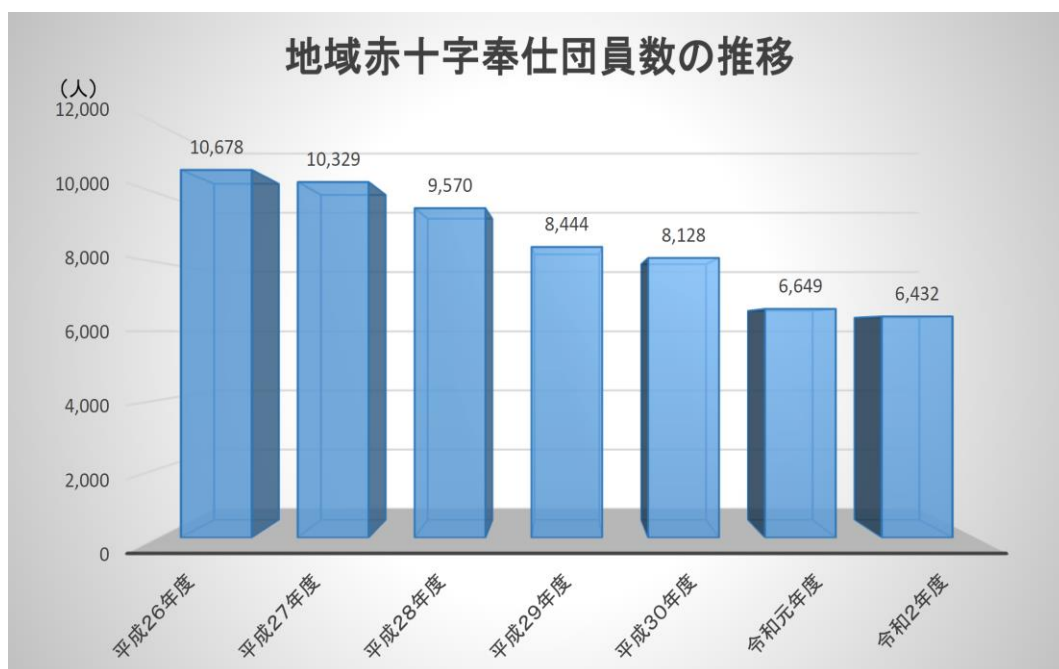
【別表】

地域赤十字奉仕団結成状況

(令和3年3月31日現在)

市 地 区 地 域 奉 仕 団	区分	結成数	男性（人）	女性（人）	合計（人）
	和歌山市	19	157	1,181	1,338
	海 南 市	2	21	171	192
	橋 本 市	1	114	47	161
	有 田 市	1	0	321	321
	御 坊 市	1	13	189	202
	田 辺 市	5	57	435	492
	新 宮 市	1	16	162	178
	紀の川市	5	260	1,362	1,622
	岩 出 市	1	17	254	271
	小 計	36	655	4,122	4,777

郡 地 区 奉 仕 団	区分	結成数	男性（人）	女性（人）	合計（人）
	海 草 郡	1	3	32	35
	伊 都 郡	2	11	263	274
	有 田 郡	1	1	221	222
	日 高 郡	2	1	34	35
	西牟婁郡	4	172	410	582
	東牟婁郡	5	39	468	507
	小 計	15	227	1,428	1,655
合 計		51	882	5,550	6,432



(2) 青年赤十字奉仕団

青年赤十字奉仕団は社会人や学生等で構成されており、当支部には和歌山赤十字看護専門学校に結成された「和歌山県赤十字特別看護奉仕団」、近畿大学生物理工学部に結成された「近畿大学生物理工学部学生赤十字奉仕団」、及び和歌山大学に結成された「和歌山大学和歌山ASEANプロジェクト学生赤十字奉仕団」があります。

各奉仕団の結成状況及び活動・研修会については以下のとおりです。

◇青年赤十字奉仕団結成状況◇

団 名 () 内は略称	男 (人)	女 (人)	合計 (人)
和歌山県赤十字特別看護奉仕団 (看護奉仕団)	5	30	35
近畿大学 生物物理工学部学生赤十字奉仕団 (近大学生奉仕団)	15	16	31
和歌山大学 和歌山ASEANプロジェクト学生赤十字奉仕団 (WAP奉仕団)	14	18	32

※ 令和3年3月に和歌山赤十字看護専門学校が閉校したことに伴い同月、「和歌山県赤十字特別看護奉仕団」は解団いたしました。

◇主な活動・研修会◇

活動・研修会名	開催方法	活動奉仕団名 (略称)	内 容
和歌山県青年赤十字奉仕団基礎研修会	Web開催	近大学生奉仕団 WAP奉仕団	基礎研修
第4ブロック青年赤十字奉仕団リーダー養成研修会	Web開催	近大学生奉仕団 WAP奉仕団	リーダー養成研修



(3) 特殊奉仕団

① 和歌山県赤十字特別救護隊

昭和39年にアマチュア無線の有資格者により結成された特殊赤十字奉仕団で、災害時の救援、輸送及び通信を主な目的として活動しており、現在、6つの地域に分隊が置かれ、合わせて50人が隊員として登録しています。

◇和歌山県赤十字特別救護隊構成状況◇

分隊名	隊員数 (人)
紀 北	13
和歌山	11
有 田	11
中 紀	1
紀 南	5
泉	9
計	50



◇主な活動状況◇

訓練・研修会名	実施場所	内容
アマチュア無線全国通信訓練	支 部	アマチュア無線通信訓練

② 障害者支援赤十字奉仕団

平成16年に結成された障害者支援赤十字奉仕団「グループあかり」は、県内の盲学校やボランティアグループ等と連携して、視覚障害児童・生徒への支援活動を行っています。

令和2年度も視覚障害により市販の本を読むことが困難な児童等のために、文字や絵を大きくして見やすく工夫した拡大写本や布絵本などの作品を手作りで製作し、支援学校や障害児施設等に寄贈しました。

また、視覚障害児童・生徒向けの防災教材が、内閣官房国土強靱化推進室に『国土強靱化の民間の取組事例』として取り上げられました。



◇今年度の主な製作品◇

作品名	作品数
布絵本「きんぎょがにげた」	1
布絵本「わたしのワンピース」	1
「防災教室」	2
救急法講習用教材	8



③ 和歌山県青少年赤十字賛助奉仕団

平成 16 年に結成された和歌山県青少年赤十字賛助奉仕団は、小・中・高等学校の退職教員等により組織され、県内の学校への加盟促進や青少年赤十字メンバーの育成に協力しています。

令和 2 年度は、和歌山県青少年赤十字トレーニングセンターでの指導や、第 4（近畿地区）ブロック青少年赤十字賛助奉仕団交流研修会への参加を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、開催を中止しました。

（４）赤十字個人ボランティア

災害時の支援活動や講習会での指導など赤十字が行う活動を自主的に支援してくださる個人ボランティアの募集を行っています。

令和 2 年度末現在の登録者数は、右表のとおりとなっております。

活動内容	人数
防災減災講習での指導者	1
災害時の活動支援等	9
青少年活動、レクリエーション指導 等	2
計	12



4 青少年赤十字

(1) 青少年赤十字加盟校と青少年赤十字メンバー

青少年赤十字は、将来を担う子供たちが赤十字を正しく理解し、思いやりの心を身に付け、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、教師が指導者となり学校教育の中で進められる青少年育成事業です。

令和3年3月末現在で、和歌山県内の89校（園）が加盟しており、23,148人のメンバーが活動に参加しています。

	令和2年度				令和元年度			
	県内学校数 (校・園)	加盟校数 (校・園)	加盟率 (%)	メンバー数 (人)	県内学校数 (校・園)	加盟校数 (校・園)	加盟率 (%)	メンバー数 (人)
幼稚園・保育所	115	10	8%	1,245	112	5	4%	393
小学校	248	26	10%	7,861	249	24	9%	7,090
義務教育学校	1	1	100%	744	1	0	0%	0
中学校	128	10	7%	1,743	129	9	6%	1,615
高等学校	50	40	80%	11,387	50	40	80%	11,982
特別支援学校	12	1	8%	168	12	1	8%	168
合計	436	89		23,148	437	79		21,248

※ 県内学校数は文部科学省発表『学校基本調査（確定値）』による。

※ 加盟率は県内学校数に対する青少年赤十字加盟校数の比率。

(2) 和歌山県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターの開催

赤十字の人道・博愛の精神に基づいて、「気づき、考え、実行する」という態度目標を、宿泊型の研修の中で身に付けるものです。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、開催を中止しました。

(3) 和歌山県青少年赤十字高校生研修会の開催

赤十字への理解を深め、青少年赤十字活動の活性化を図るため、県内加盟校の高校生メンバーを対象とした研修会を開催しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、以下のとおりWebにて開催しました。

開催日	開催内容	開催地	参加者
3月7日	東日本大震災から10年 語り部LIVE (Web開催)	支部	加盟校生徒他64人

（４）和歌山県青少年赤十字指導者協議会

青少年赤十字指導者協議会は、加盟校の校長や教諭等で組織され、加盟校での青少年赤十字活動の指導法や普及促進などについて協議し、加盟校間の連携を図っています。

令和２年度は、以下の会議へ参加しました。

開催日	会議・研修会等	開催地	参加者
９月１１日	青少年赤十字全国指導者協議会総会	本社（Web 開催）	会 長
９月３０日	和歌山県青少年赤十字指導者協議会	県 支 部	会長、副会長他９人



5 赤十字各種講習

人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識と技術を、ひとりでも多くの方に知っていただくため、救急法等の各種講習を行いました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、接触を伴う実技の指導自粛や密集を避けるために人数制限などを行って実施しました。

(1) 救急法

不慮の事故や急病の発生に際し、直ちに手当が必要な傷病者に対する救命手当の方法（胸骨圧迫や人工呼吸の方法、AED（自動体外式除細動器）の使用法）を習得する「救急法基礎講習」、医師に引き渡すまでに病状の悪化を防ぐための応急手当の方法（急病やけがの手当、搬送方法等）を習得する「救急法救急員養成講習」、及びこれら両講習の内容の一部を選択して講習時間を短縮した「救急法短期講習」等がありますが、令和2年度は基礎講習と短期講習のみ実施しました。



◇救急法講習の実施状況◇

講習名	実施回数	受講者数（人）	修了者数（人）	養成者数（人）
救急法基礎講習	7	79	79	79
救急法短期講習	40	787	—	—
合計	47	866	79	79



(2) 水上安全法

水の事故から人命を守るために必要な方法（泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法）を習得する「水上安全法救助員養成講習」、及びこの講習の内容の一部を選択して講習時間を短縮した「水上安全法短期講習」等がありますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止しました。



(3) 健康生活支援講習

高齢者の支援、自立に向け役立つ介護技術や、高齢期を迎えた方にも役立つ健康維持の知識を習得する「健康生活支援員養成講習」、及びこの講習の内容の一部を選択して講習時間を短縮した「健康生活支援短期講習」等がありますが、令和2年度は短期講習のみ実施しました。



◇健康生活支援講習の実施状況◇

講 習 名	実施回数	受講者数（人）
健康生活支援短期講習	10	37

(4) 幼児安全法講習

子どもに起こりやすい事故や病気の予防と手当を習得する「幼児安全法支援員養成講習」、及びこの講習の内容の一部を選択して講習時間を短縮した「幼児安全法短期講習」等がありますが、令和2年度は短期講習のみ実施しました。

◇幼児安全法講習の実施状況◇

講 習 名	実施回数	受講者数 (人)
幼児安全法短期講習	1 1	4 1 7





6 会員の増強と活動資金の増収

(1) 会員の増強

日本赤十字社が行う活動は、会員をはじめとした多くの方々からいただく活動資金によって運営されています。

一人でも多くの皆様に会員に加入していただくよう、日本赤十字社への理解や協力を促すため、5月の赤十字運動月間にあわせて、広報紙の発行やテレビCM、ポスター掲示等の啓発活動に努めました。

(2) 活動資金の増収

① 地区区分扱いの活動資金増収

地区区分扱いの活動資金は年々減少傾向にあることから、活動資金増収方策として、支部が作成した活動資金募集資材を各地区区分から、募集活動をお手伝いいただく自治会長や班長へ配付してもらい、募集活動をお願いしました。

② 支部扱いの活動資金増収

支部扱いの活動資金は、近年、僅かながら増加傾向にありますが、なお一層の増収方策として、赤十字に関心を持っていただけるように、広報資材や媒体を活用して、赤十字活動資金へのご協力をお願いに努めました。

主な活動資金の増収方策は、以下のとおりです。

ア. ダイレクトメールの送付

赤十字活動にご支援をいただけるよう、県内の個人や法人、会員などに対して、活動資金寄付協力広報紙「日赤和歌山」と郵便払込用紙を同封したダイレクトメール 23,548 通（法人 18,406 件、個人 5,142 件）を発送し、活動資金の増収に努めました。

イ. 寄付金付自動販売機の増設

飲料販売業者と連携して、県内の企業や個人商店等に設置場所の協力を求めた結果、新たに2台の寄付金付自動販売機を増設することができました。

現在、県内に設置協力をいただいている総数は12台（6企業・3施設）となりました。



ウ. 赤十字善意箱の増設

個人・法人の皆様の会社窓口や店頭等に赤十字善意箱（募金箱）設置の協力に努めました。

引き続き、善意箱の設置拡充に努めてまいります。



エ. 遺贈・相続財産の寄付

近年、故人のご遺志により、自分の築いた財産を寄付する「遺贈」、ご遺族の方が相続した財産を寄付する「相続財産の寄付」を赤十字へ寄付していただける尊いお申し出が増えております。

令和2年度におきましては、遺贈1件と相続財産寄付1件のお申し出がありました。

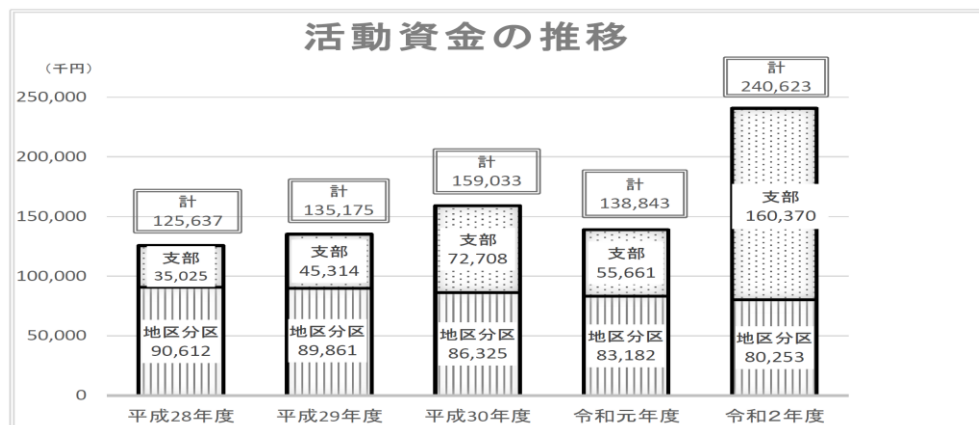
引き続き、専用パンフレットを活用して、遺贈寄付等への受付に努めてまいります。



(3) 活動資金の推移

前記のとおり活動資金の増収に努めた結果、県内の個人、法人及び団体等から240,623千円のご支援をいただきました。

対前年度比較では、101,780千円の増額（73.3%増）となりました。



◇対前年度活動資金募集実績額比較表◇

(千円)

項 目			令和元年度	令和2年度	増 減	比率 (%)
支部扱い	会 費	一般(個人・団体)	37,357	63,173	25,816	69.1%
		法 人	13,206	32,712	19,506	147.7%
		小 計	50,563	95,885	45,322	89.6%
	寄付金	一般(個人・団体)	2,698	61,985	59,287	2197.4%
		法 人	2,400	2,500	100	4.2%
		小 計	5,098	64,485	59,387	1164.9%
	合 計	一般(個人・団体)	40,055	125,158	85,103	212.5%
		法 人	15,606	35,212	19,606	125.6%
		合 計	55,661	160,370	104,709	188.1%
地区分区扱い	会 費	一般(個人・団体)	81,276	78,659	-2,617	-3.2%
		法 人	1,120	790	-330	-29.5%
		小 計	82,396	79,449	-2,947	-3.6%
	寄付金	一般(個人・団体)	686	804	118	17.2%
		法 人	100	0	-100	-100.0%
		小 計	786	804	18	2.3%
	合 計	一般(個人・団体)	81,962	79,463	-2,499	-3.0%
		法 人	1,220	790	-430	-35.2%
		合 計	83,182	80,253	-2,929	-3.5%
総計	会 費	一般(個人・団体)	118,634	141,832	23,198	19.6%
		法 人	14,326	33,502	19,176	133.9%
		小 計	132,960	175,334	42,374	31.9%
	寄付金	一般(個人・団体)	3,383	62,789	59,406	1756.0%
		法 人	2,500	2,500	0	0.0%
		小 計	5,883	65,289	59,406	1009.8%
	総 計	一般(個人・団体)	122,017	204,621	82,604	67.7%
		法 人	16,826	36,002	19,176	114.0%
		合 計	138,843	240,623	101,780	73.3%



7 広報活動の強化

(1) 赤十字の広報活動

① 広報紙「日赤和歌山」発行

当支部の活動報告と活動資金の増強を図るため、令和2年11月と令和3年2月の2回、広報誌「日赤和歌山」を発行し、県民の皆様配布（回覧）すると共に、赤十字会員の方々や赤十字関係者等に配布しました。

【11月発行日赤和歌山】



「外面」



「中面」

【2月発行日赤和歌山】



「外面」



「中面」

② 赤十字NEWSの配付

本社が発行する『赤十字NEWS（月刊）』を赤十字活動の広報誌として、支部役員、評議員、地区区分長、奉仕団委員長、和歌山県日赤有功会員、青少年赤十字加盟校長及び大口活動資金協力者等へ毎月配布しました。

赤十字会員の方々へは、予算概要及び決算概要について報告させていただくために、赤十字NEWSを令和2年4月と、令和2年9月に送付しました。

③ 「赤十字ふれあい広場（仮称）」の開催中止

本年度は、支部創立 125 周年、医療センター創立 115 周年、血液センター創立 55 周年に当たり、県民の方々にもっと赤十字を身近に感じていただくために、上記イベントを和歌山市内の大型ショッピングセンターで開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

④ 「公共団体等主催の各種イベント」への出展の中止

「和歌山商工まつり」や「食と暮らしの大博覧会」等のイベントに参加し、日本赤十字社公式キャラクター「ハートラちゃん」とのふれあい、赤十字活動パネルの展示、救急法等の講習を通して、赤十字事業と活動資金募集のPRを行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

⑤ ホームページによる広報活動

当支部のホームページに適宜活動状況等を掲載し、幅広い方々に対して新着情報を提供すると共に、赤十字事業と活動資金募集のPRに努めました。

⑥ 路線バスの車内広報活動

南海和歌山市駅や和歌山市内 15 ヶ所の停留所名をバス内で案内した後、音声放送及び映像広告を年間約 80 万回放映し、赤十字活動資金募集の P R を行いました。



⑦ テレビCMによる広報活動

「夏の高校野球和歌山大会」開催期間中、赤十字活動と活動資金募集のテレビCM（15 秒）を放映しました。

また、年間を通して、テレビ和歌山様のご協力のもと、テレビCM（15秒・30秒）を放映しPRを行いました。

・テレビCM「あなたの手となり、ぬくもりとなり」

(1)



そのまなざしは、

(2)



あなたのまなざしだ。

(3)



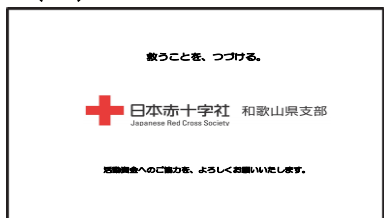
そのぬくもりは、

(4)



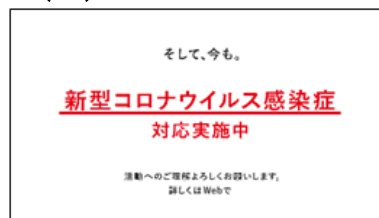
救いを託されている。

(5)



活動資金へのご協力を、
よろしくお願いいたします。

(6)



そして、今も。

⑧ 赤十字広報ポスター及びリーフレットによる広報活動

本社が作成した赤十字ポスターやリーフレットを地区区分、大手スーパー各店舗及び関係各所に掲示していただくようお願いし、赤十字活動のPRに努めました。



年間ポスター



月間ポスター

⑨ 横断幕による広報活動

年間を通して、当支部が所在する日赤会館の外壁に横断幕を掲出し、赤十字活動と活動資金募集のPRに努めました。

また、5月の赤十字運動月間の期間中は、フレーズを替えた横断幕で周知を図りました。



(2) 赤十字運動月間（5月）

① 赤十字運動月間周知キャンペーン及びクリーンキャンペーン

令和2年5月1日から31日の赤十字運動月間には、地域赤十字奉仕団員のご協力を得て、JR和歌山駅など県内各地で赤十字会員の募集を啓発する街頭募金活動等を行う「赤十字運動月間周知キャンペーン」及び地元地域で清掃を行う「クリーンキャンペーン」を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大から非常事態宣言が発令されたことで、運動月間中の実施を延期することになりました。

その後、非常事態宣言が解除され、あらためて活動の再開を依頼させていただいた結果、感染防止対策を徹底し、上記の「赤十字運動月間周知キャンペーン」及び「クリーンキャンペーン」を実施していただきました。

② 懸垂幕の掲出

赤十字運動月間中、多くの方々に赤十字運動月間を知って頂くため、懸垂幕を和歌山市内ホテルに掲出し、活動資金募集のPRに努めました。



8 評議員会

支部の重要な業務についての審議や、支部長、副支部長等の役員の選出等を行う評議員会は、会員の中から選出された評議員をもって組織されます。

令和２年度に開催した評議員会の概要は、以下のとおりです。

開催日	付議事項	報告事項等
令和２年 ６月１６日	- 令和元年度支部事業報告及び歳入歳出決算 - 令和元年度医療センター事業報告及び歳入歳出決算	- 令和元年度支部歳入歳出補正予算 - 令和元年度医療センター歳入歳出補正予算 - 令和元年度血液センター事業報告
令和３年 ２月１７日 【文書審議】	- 令和３年度支部事業計画及び歳入歳出予算 - 令和３年度医療センター事業計画及び歳入歳出予算 - 令和３年度血液センター事業計画	令和２年度医療センター歳入歳出補正予算

【支部役員名簿 ※令和３年３月３１日時点】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
支部長	仁坂 吉伸	監査委員	野志 幸生
副支部長	小谷 芳正	〃	西平 都紀子
〃	宮本 浩之	顧問	高垣 博明
(当支部選出) 本社理事	木谷 聡一	参与	志場 紀之
(〃) 本社代議員	石井 太郎	参与	長谷 哲生
〃	岡本 政仁		

【評議員名簿 ※令和３年３月３１日時点】

選 出 別	氏 名	選 出 別	氏 名
支部長選出	島 正博	御坊市地区	米倉 守
〃	木谷 聡一	田辺市地区	愛瀬 美智子
〃	中谷 弘	〃	山田 友昭
〃	大桑 増嗣	新宮市地区	榎本 義清
〃	勝本 僖一	〃	大谷 康央
〃	小向 俊和	紀の川市地区	中村 慎司
〃	岡本 政仁	〃	赤井 美佐子
〃	中岡 俊明	岩出市地区	中芝 正幸
和歌山市地区	石井 太郎	〃	家原 みや子
〃	前島 五十昭	海草地区	吉村 耕治
〃	西村 征男	伊都地区	内海 照隆
〃	楠見 皓生	〃	中阪 雅則
〃	尾家 賢司	有田地区	上山 章善
海南市地区	坂本 時夫	〃	北村 忠治
〃	口井 智之	日高地区	松本 秀司
橋本市地区	西山 嘉造	〃	植田 英明
〃	坂本 安弘	西牟婁地区	岩田 勉
有田市地区	宮崎 三穂子	〃	戸梶 章子
〃	木村 武弘	東牟婁地区	山口 賢二
御坊市地区	柴本 勝治	〃	和田 千明

9 決算概要

【令和2年度一般会計（和歌山県支部） 歳入・歳出決算概要】

歳 入

項 目	決算額(千円)	比率	備考
社資収入	240,624	76.4%	
委託金収入	696	0.2%	新型コロナウイルス関連業務委託料及び令和2年7月豪雨災害における救護活動費用補償
補助金及び交付金収入	915	0.3%	本社からの交付金
資産収入	42,125	13.4%	和歌山県日赤会館に入居するテナントからの賃料等
雑収入	11,268	3.6%	講習で使用する教材の頒布収入、貸会議室の利用収入等
前年度繰越金	19,162	6.1%	
歳入合計	314,790		

歳 出

項 目	決算額(千円)	比率	備考
災害救護事業費	24,476	8.3%	救護訓練の実施や救護資機材の整備等に要した費用
社会活動費	20,597	6.9%	救急法等の普及、奉仕団や青少年赤十字の育成等に要した費用
国際活動・本社活動費	35,193	11.8%	国際的、全国的な活動のために拠出した費用
地区分区交付金支出	11,549	3.9%	市町村への赤十字活動交付金
社業振興費	24,425	8.2%	活動資金の募集や広報活動に要した費用
基盤整備交付金・補助金支出	6,700	2.3%	日本赤十字社和歌山医療センターへの交付金
積立金支出	126,649	42.6%	災害に備えるための資金への積立金等
一般管理・資産管理費	47,448	16%	業務運営に要した人件費や物品等購入費、日赤会館の維持管理に要した費用等
歳出合計	297,037		

歳入歳出差額(翌年度繰越額) 17,753 千円

地区別事業実績等概況表(令和2年度)

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

			市地区									郡地区							合計
			和歌山市	海南市	橋本市	有田市	御坊市	田辺市	新宮市	紀の川市	岩出市	海草	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁		
救援物資配付数	毛布		0	6	6	0	1	12	0	0	3	0	0	4	2	0	4	38	
	緊急セット		0	3	5	1	1	6	0	0	1	0	0	1	1	0	1	20	
講習実施回数及び受講者数	救急法	実施回数	38	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	47	
		受講者数	786	16	9	0	0	0	0	0	19	0	0	0	36	0	0	866	
	水上安全法	実施回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		受講者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	健康生活支援	実施回数	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	
		受講者数	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	
	幼児安全法	実施回数	10	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	
		受講者数	387	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	417	
	防災・減災セミナー	実施回数	10	0	0	0	0	0	0	2	8	0	1	0	0	0	0	21	
		(うちWeb開催)	(1)							(2)								(3)	
		受講者数	827	0	0	0	0	0	0	23	523	0	25	0	0	0	0	1,398	
		(うちWeb受講)	(18)							(23)								(41)	
	新型コロナウイルス感染症対策セミナー	実施回数	7	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	11	
		(うちWeb開催)	(1)															(1)	
		受講者数	593	0	0	0	0	0	0	0	523	25	25	0	0	0	0	1,166	
		(うちWeb受講)	(18)															(18)	
	合計	実施回数	75	2	1	0	0	1	0	2	12	1	2	0	4	0	0	100	
		(うちWeb開催)	(2)							(2)								(4)	
		受講者数	2,630	16	9	0	0	30	0	23	1,065	25	50	0	36	0	0	3,884	
		(うちWeb受講)	(36)							(23)								(59)	
地域奉仕団	団数	19	2	1	1	1	5	1	5	1	1	2	1	2	4	5	51		
	団員数	1,338	192	161	321	202	492	178	1,622	271	35	274	222	35	582	507	6,432		
青年・特殊奉仕団	団数																6		
	団員数																170		
青少年赤十字	加盟校数	35	1	10	2	4	6	2	6	4	2	9	4	2	1	1	89		
	メンバー数	10,682	17	2,164	766	701	1,955	874	1,290	894	18	1,566	899	470	633	219	23,148		